

委員会視察報告書

委員会名	産業建設常任委員会
視察地	福井県あわら市
調査項目	道の駅「蓮如の里あわら」コンセプト及び地域振興
調査目的	道の駅再開発が柏崎市の地域活性化の起爆剤となるのか、他市の取組を参考とするため、道の駅「蓮如の里あわら」を調査することを目的に視察を行った。
日時	令和5（2023）年8月29日（火）午後1時30分～午後3時
場所	あわら市役所 委員会室 道の駅「蓮如の里あわら」（現地視察）
調査概要	<p>1 福井県あわら市について（PR 動画視聴）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県の最北端に位置（面積 116.98 平方km） ・福井県坂井市、石川県加賀市に隣接 ・人口 26,494 人（令和5年7月の推計人口） ・令和6年春には北陸新幹線芦原温泉駅開業 <p>2 道の駅「蓮如の里あわら」の基本情報について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅のある吉崎は、浄土真宗中興の祖・蓮如が1471年から4年間で一大宗教都市を形成し、「蓮如の里」と呼ばれ、かつては全国から多くの参拝者があった。近年の観光客入込数は全盛期と言われる昭和45年の10分の1以下。エリアが持つ資源をポテンシャルや時代に合わせた形での再定義・再デザインが必要。そこで、地域活性の拠点として、地域と共に作る個性あるにぎわいの場として、あわら市初の道の駅を整備。 ・北陸新幹線芦原温泉駅周辺・あわら温泉街・吉崎エリアの離れている3地点を結び、周遊型の観光を推進。 ・市全域に元気と活力を取り戻し、増進させ、地域住民の生活の向上や地域の活性化を図ることが目的。 ・道の駅隣の汀公園、また近隣にある「蓮如上人記念館」を含め、集客効果を上げる施設、機能強化施設として設定している。「蓮如上人記念館」には京都からのカフェがオープンした。 ・基本コンセプトは、「三方よし、感幸ステーション」（三方よしは近江商人の経営哲学） ・子育て世帯が使い勝手がいいように、子ども用のトイレを設置。ま

	<p>た、子育て応援施設として、授乳室、調乳室、パウダールーム、おむつ交換台を設置。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営状況は、利用者数：215,308人（目標36万人）、売り上げ累計：100,326千円（目標91,534千円）（4/22～8/27まで）達成しているようだが、運営の形態が、仕入れ、委託販売で、あまり粗利が残る状況ではないので、課題としては、今後収支状況を考えていく必要がある。 <p>3 現地視察</p>
<p>視察の様子</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>あわら市役所での説明 道の駅「蓮如の里あわら」(現地視察)</p>
<p>質疑応答</p>	<p>質問1 周辺に存在する道の駅との差別化・戦略</p> <p>回答1 丘陵地が広がる県内最大の園芸産地に囲まれた立地を生かし、多くの農業者と連携し、多品種かつ高品質の野菜・果物を常に直売できるようにして差別化を図っていきたい。生産者等による協議会を組織し、店頭に並ぶ野菜や果物を確保している。しかし、経営一年目で、どのような野菜が、どれくらいの量を切れ目なく確保できるかノウハウがなく、今夏の暑さや果物の入替の時期もあり、現在品薄状態である。今後は、更なる直売の規模拡大と認知の定着に努めていく。</p> <p>質問2 道の駅と地域の商店街との関わり</p> <p>回答2 吉崎地域は、近隣に商店街のない地域である。道の駅での販売商品は、地元で製造販売されている品物が最も重要と考えている。開駅に先立ち、指定管理者が地元業者を丁寧に巡回・訪問することで関係を構築し、物理的な距離にも関わらず積極的に納品いただくなど、道の駅の運営にしっかりと関わってもらっている。</p> <p>質問3 観光資源との連携。イベント開催の協力体制の作り方</p> <p>回答3 隣接する北潟湖周辺は、市を代表する観光スポットの一つ。担当課と協力を得ながら、観光イベントやスポーツイベント内で道の駅のPRをする一方で、道の駅でもイベントのPRをし、相互の来客数の増加を図っている。広報の連携によりイベントの集客</p>

が昨年より増えたという実績もあった。また、月に一度、市と道の駅の強化施設である蓮如上人記念館のほか、観光協会、商工会、観光所管課および創作の森という美術館が集まり、広報や旅行商品開発にかかる会議を開催している。

質問4 開業してからの人の流れの変化、市民の反応

回答4 コロナ禍前におけるこの地区への観光客が年間5万人程度であったが、4月22日の開駅から、先週時点で約21万5千人来場。(年間目標利用者数36万人。)指定管理者が実施した利用者へ対するアンケート結果によると、福井県から約6割、石川県から約2割、関西から約1割のお客様が来駅いただいている。市民からは、オープン以降の施設の混雑具合を見て驚きの声をいただいている。一方で、周辺道路の混雑や交通渋滞に対する苦情もあり、現在は駐車場を増設、整備中である。

質問5 レンタサイクルやシャワールームの利用頻度や利用者の声

回答5 【レンタサイクル】

全て電動アシスト付きの自転車7台に、電動キックボード2台を配置。6月から開始で、実績は21件。遠くへ行きすぎて充電が切れてしまった例もあった。今後、サービスの認知拡大、利用イメージをさらにPRしていく。

【シャワールーム】

男女別で一か所ずつ用意しているが、6月から14件の利用。外遊びで汚れた子どもを洗いたいと借りに来る例もあった。今後は、北潟湖でのSUP(スタンドアップパドルボート)などのアクティビティを絡めたPRが必要と考える。

質問6 利用される地域の方の声の傾向

回答6 道の駅施設全般や運営については、おおむね好評。また、おおむね以下のような要望を頂いている

- ・駐車場をもっと広げてほしい
- ・子どもが遊べるような施設がほしい
- ・福井県、特にあわら市の商品をもっと積極的に販売してほしい
- ・飲食コーナーの座席をもっと増やしてほしい
- ・野菜・果物の販売にもっと力を入れてほしい

質問7 「蓮如の里あわら」の建設位置決定等の経緯及び建設事業費、

	<p>経営事業計画</p> <p>回答7 位置決定の経緯は、吉崎を通る国道305号沿いは、東尋坊など景勝地も多く、観光道路としての側面もあり車の通行量が多い。</p> <p>かつては全国から多くの参拝客が訪れ、福井県を代表する観光地として栄えていたが、昨今は往時のにぎわいがなく、人口減少・少子高齢化が急激に進んでいるエリアである。あわら市北部の地域資源やポテンシャルを最大限活用し、地域活性化の拠点として、道の駅を整備した。</p> <p>建設事業費</p> <p>道の駅整備費：約 664,132 千円</p> <p>汀公園整備費：約 45,565 千円</p> <p>合計：約 709,697 千円</p> <p>質問8 道の駅が及ぼす地域振興、経済波及効果</p> <p>回答8 道の駅だけでなく、蓮如上人記念館にカフェが新たにオープンしたことで、このエリアを幅広い世代の方が訪れている。この人の流れを、施設周辺の寺院や地元のまちづくり団体の活動と連動させ、吉崎が持つ歴史・宗教・文化に結び付けることで地域の魅力の再発掘につなげていきたい。</p> <p>これまでは、あわら市の地場産品の質の高さを紹介する際、実際に食べたり手に取ったりできる場所の提案が難しかったが、道の駅を通じて「ここで食べられる」「ここで買える」「ここに集まっている」と積極的なPRにつなげることができるようになった。</p>
委員会所感	<p>【阿部 基】</p> <p>道の駅「蓮如の里あらわ」では、おいしいモノ、たのしいこと、温かいヒトがつながる道の駅をテーマとして掲げ、地域に住み人も観光客も訪れる空間を目指している。</p> <p>地場農産物などの物販、カフェなどの飲食コーナーを設置していたとともに子ども向けのトイレ、シャワー室、レンタル自転車もあり、工夫が見られた。</p> <p>また、地場産農物の提供状況や隣接する寺院の駐車場を借りることなど、周辺住民などの理解、協力体制に驚きを感じるとともに、道の駅「蓮如の里あらわ」が地域にとって必要であることの証明であると実感した。</p> <p>柏崎市で休止中の道の駅再整備について、如何に市民の協力を得られるかが課題である。</p> <p>議員としてしっかりと判断ができるよう、調査、研究が必要であると感じた。</p> <p>【田邊優香】</p>

道の駅「蓮如の里あらかわ」のコンセプトは『三方よし、感幸ステーション』という事で、おいしいモノ、たのしいこと、温かいヒトがつながる道の駅である。

北陸新幹線芦原温泉駅・あわら温泉街・吉崎エリアの3拠点を結び周遊滞在型の観光を推進している。道の駅がある吉崎エリアからはレンタサイクルがあるので自転車でゆっくりと観光もでき、シャワー施設も整っており、非常に使い勝手が良いと感じた。本市でも市内中心地より離れた場所に道の駅を整備するので、あわら市のように周遊できるよう調査研究が必要ではないかと考える。

【山崎智仁】

道の駅運営における地域連携について学ぶことができた。道の駅「蓮如の里あわら」の立地は、北陸新幹線 JR 芦原温泉駅からも福井県随一の温泉地あわら温泉からも車で15分となっており、まちなぎわいからは少し離れているが、隣接する北潟湖や蓮如上人由来の史跡、観光スポットとの連携を図り、電動アシスト自転車のレンタル事業を展開するなど、市内周遊滞在型の観光を推進する明確な位置付けが行われている。

また、周遊滞在型の観光を推進するにあたり、観光協会、商工会、観光所管課など各団体をまたいだ会議を重ねて、広報の連携や旅行商品開発をすることで相互の来客数の増加を図っている点や物販施設運営に対して出荷者協議会を組織するなど、道の駅に対する行政と市民の協働の在り方が重要である認識を持った。

【池野里美】

来年度新幹線が開通する芦原温泉駅や中心市街地からは、車で15分程度と少し離れたところにある道の駅。コンセプトとして、駅周辺、あわら温泉街、道の駅のある吉崎エリアの3点を結ぶ周遊滞在型の観光を推進している。目の前に北潟湖があり、周辺に機能強化施設として、蓮如上人記念館、寺院、公園が隣接。地場産の新鮮な野菜や果物、地場産品を販売だけでなく、電動レンタサイクルや男女別シャワールームがあるのが面白い。今夏の暑さで利用者は少なかったが、夏休みは家族連れでレンタサイクルを活用し近隣を周る姿もあつたり、子どもが砂で汚れたからとシャワールームを使ったりする親子もいたとのこと。また、子育て応援施設として、授乳室、調乳室、パウダールームも完備。これからは親子連れに優しい施設というコンセプトは必須だと感じる。

駐車場が66台で、オープン当初から2か月程度は周辺道路が渋滞してしまい、現在、新たな駐車場を整備中であるとのことであった。

【相澤宗一】

開業間もない道の駅、代表の方は館長と呼ばれており、館長が満面の笑みで我々を迎え入れてくれたのが印象に残っている。

あわら市初の道の駅開業ということで、多くの方が一気に訪問したことから駐車場の不足と周辺道路の大混雑により、かなり苦情が寄せられたとのことである。柏崎市においてもお楽しみな施設の開設時には同様な現象が起こっており、耳が痛い。オープン時は致し方ない面はあるが、その一過性で終わってはならない。開業のコンセプトを十分に練って、それを運営する人たち全員が理解して実行する必要があるため、しっかりとした道の駅整備の目的の構築が重要であると感じた。

【真貝維義】

最近の道の駅は、道の駅自体や地域資源を楽しむ「目的地」を目指している道の駅が多い。「蓮如の里 あわら」は、北陸新幹線の明年春の開業による誘客を見込んでおり、温泉街と新幹線駅周辺、そして道の駅を整備した吉崎エリアを有機的に結ぶことを目的としている。蓮如が布教の拠点とした吉崎地区の歴史や文化、北潟湖や地元の特産品などを紹介し、観光客や地域住民に多様なサービスを提供するとともに、地域の観光ゲートウェイとして、地域資源の活用や地域の課題解決を目指している。

当市においても道の駅の整備目的・コンセプト・事業計画を明確にし、観光産業や地域経済への波及効果が見込める事業として取り組むべきである。